

## Nimal・D・Hettiarachchi

防災対策は、予測不能な自然災害や人災により大きな被害が起きているため、とくにアジア地域の国々にとっては、多に関心の寄せられている比較的新しい分野です。この 20 年間において、そうした惨禍を避け、経済社会環境の発展を確固としたものにすることは、非常に重要となってきています。



この点から、実効的・包括的な防災計画を策定し、緊急事態を指揮することのできる、十分に訓練を受け、経験豊富な災害担当官は、アジア地域のような災害に対して非常に脆弱である国々において貴重な人材となります。

ADRC によって行われている **Visiting Researcher** プログラムは、特徴あるプログラムで、首尾一貫した方向性を持って、災害担当官を研修するものとなっています。実際プログラムは、災害の根本原因をなくし、将来の防災計画構築に、多いに貢献しうる十分な訓練を受けた災害担当官を形成するように組みられています。またさらに、知識と技術を広げるため、災害による影響を抑えるための対応力を高めるための機会を提供しています。

このプログラムが他と決定的に違うのは、自らの経験と知識を共有する良い環境が整っており、ADRC や日本の災害関連の専門家と協力して仕事ができる点です。さらに研究員は災害対策分野での知識を広げるために、日本やアジアに起こる災害を基礎とした様々なリサーチを行う機会が与えられています。また、火山噴火、地震、洪水による浸水などによる災害を受けやすい地域などを視察することもできます。

とりわけ研究員は、ADRC が災害関連情報を集積し、普及させるために構築している情報技術に関する知識を習得することができます。加えて、日本にある政府や国際的な組織の行っているセミナーや会議に参加することも利点です。